

丹沢山地の枕状溶岩

かどたまさひと
門田真人 (外来研究員)

丹沢山地で観察できる枕状溶岩

丹沢山地における枕状溶岩と石灰岩の分布の概略図を図1に示します。さらに、表紙 (p.9) で紹介した小菅沢の枕状溶岩を含む、丹沢湖周辺の概略図を図2に示します。図2の小菅沢の枕状溶岩は表紙でも紹介した、最近見つかった露頭です。この枕状溶岩は溶岩どうしが固結しており、さらに間の部分は、りよくれんせき 緑簾石類とそうちようせき 曹長石が生じて薄緑色になっています (図3)。小菅沢の露頭へは、「玄倉」バス停で下車し、小菅沢の左岸林道 (舗装道路) を徒歩15分上り、小菅沢鉄橋を渡ってから河床に下ります。さらに、長靴履きで上流へ5分ほど遡行すると露頭があります。バス停から近いために、アクセスがたいへん楽です。

中ノ沢は、相模原市緑区鳥屋早戸川の最上流にあります (図1)。この露頭は「早戸川の枕状溶岩」として古くから知られ、丹沢山地で最大規模です (図4)。蛭ヶ岳直下の標高900m地点の壁に位置し、高低差30m、幅60m以上にもわたって露出しており圧巻です。ここへのアプローチは、バス停「宮ヶ瀬」



図4 早戸川最上流部、中ノ沢の枕状溶岩の壁。

から徒歩で片道4時間ほどかかります。

寄沢および水棚沢の露頭は、松田町中津川の上流にあります (図1)。寄沢の露頭へはバス停「寄」から徒歩約1時間半で行くことができますが、あまり明瞭ではないので見つけにくいかもしれません。水棚沢の露頭 (図5) は、寄沢へ西から合流する水棚沢上流にあります。いくつかの地点に露出していますが、大滝を越えた源流域の狭い谷の壁にダイナミックに出現します。特に標高830mから930mにかけては連続して露出しています。しかし、たいへん険しい

がもとも古く、1700万年～1600万年前にできたと考えられています。そしてこの地層は、深い海の海底火山の周辺で堆積したと考えられています。

塔ヶ岳亜層群が堆積した後の、1500万年～1400万年前に堆積した大山亜層群という地層からは、石灰岩がたくさん見つかっています (図1)。この石灰岩には、熱帯の浅い海のサンゴ礁生物の化石が沢山含まれています。これらのことから、海底火山が火山島に成長して、島の回りにサンゴ礁がある千数百万年前の風景が見えてきます。

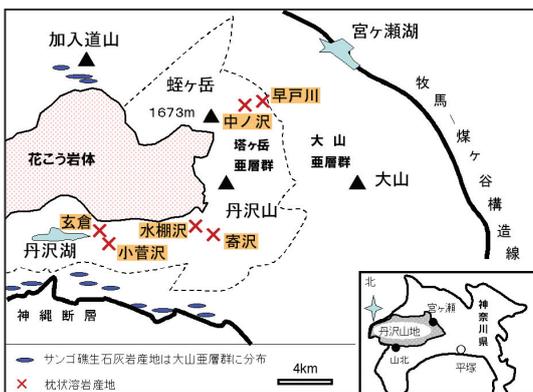


図1 丹沢山地の新第三紀中新世の石灰岩と枕状溶岩の分布概略図。

沢のために、沢登りの経験がないと危険です。一般の観覧会には不向きです。

枕状溶岩が語る丹沢の生い立ち

枕状溶岩は、これまで塔ヶ岳亜層群という地層に集中して見つかっています (図1)。この地層は、丹沢山地をつくる地層の中では、できた時代

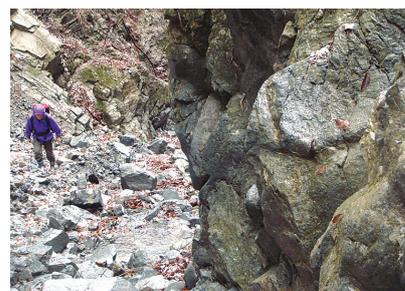


図5 松田町寄、水棚沢の枕状溶岩の産状。

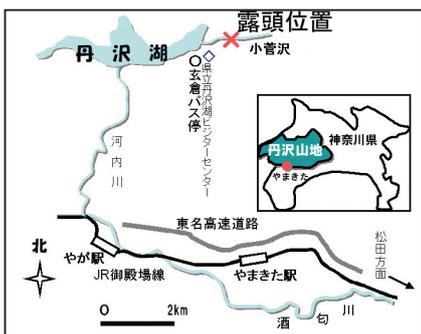


図2 丹沢湖周辺、特に小菅沢周辺の概略図。

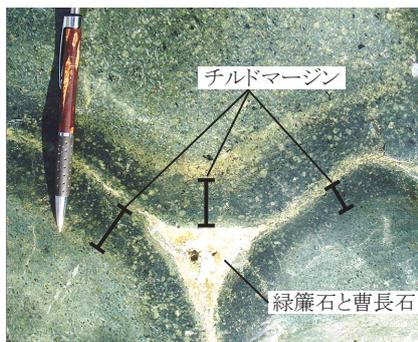


図3 小菅沢の3個の枕状溶岩の境界部分。チルドマージン (急冷相) がくっきり見える (県立丹沢湖ビジターセンターにて展示)。

自然科学のとびら
第16巻2号 (通巻61号)
2010年6月15日発行
発行者 神奈川県立生命の星・地球博物館
館長 齋藤靖二
〒250-0031 神奈川県小田原市入生田499
Tel: 0465-21-1515 Fax: 0465-23-8846
<http://nh.kanagawa-museum.jp/>
編集 山下浩之
印刷所 文化堂印刷株式会社

© 2010 by the Kanagawa Prefectural Museum of Natural History.

